

「放送人養成塾@関西」

- ドキュメンタリー課程 -
第1期(平成25年9月)

プロフェッショナルの「志」をー

本課程では「ドキュメンタリー」をキーワードに、放送と放送人のあり方を改めて考えていきます。テレビが創り出してきた文化を受け継ぎながら、次世代の放送ジャーナリズムを支える人づくりを目指します。

10:00

(17:00)

ドキュメンタリー概論

デジタル機器やネット環境の発達によって誰もが表現者となり得る時代に「テレビだからこそ伝えられること」を考えます。数多くのドキュメンタリー番組を手掛けてきた現役プロデューサーが、最新の制作手法と取材現場の取り組みを、自作番組と共に詳しく解説。次世代を視野に入れた表現の可能性を伝えます。



NHK大阪放送局 報道番組
チーフ・プロデューサー
前田 浩一 (まえだ こういち)

平成元年入局、ドキュメンタリー番組の制作を希望し名古屋制作部に赴任。東京の制作局社会情報番組に異動後、阪神淡路大震災の番組取材を機に報道局報道番組部へ、NHKスペシャル「我々はなぜ戦争をしたのか〜ベトナム戦争 敵との対話〜」、同「大蔵省 何が腐敗を生んだのか」等を担当。平成11年、大阪局に異動し、附属池田小事件取材、「守れなかった命 附属池田小・教師たちの告白」を制作。再び東京の報道局社会番組部へ異動し、生討論番組「日本の、これからの、立ち上げ」(特報首都圏)を担当、外部プロダクションと共に「スポーツ大陸 大逆転スペシャル」や「つばんの現場」等を多数制作した後、平成21年より現職。近作「未解決事件File.03 尼崎死体遺棄殺人事件」ではドラマ的手法を取り入れた新たなドキュメンタリー表現に挑んだ。

多様化するドキュメンタリーの可能性

NHK Eテレの人気番組「バリバラ」。「日本初の障害者のためのバラエティ番組」と位置づけられ、笑いやエンターテインメント性を豊富に盛り込んだこの番組は、実は入念なくドキュメンタリー的思考の積み重ねの上に開発されている。企画の立ち上げから現在まで指揮を取り続ける番組プロデューサーが、そのねらいを語ります。



NHK大阪放送局 制作部
チーフ・プロデューサー
日比野 和雅 (ひびの かずまさ)

平成2年入局、京都生まれ。番組制作局に配属され、NHKスペシャル「障害者の日」制作。平成11年から教養番組部およびNHKエデュケーショナル(特集文化部)にて教養・美術分野を主とした大型番組を制作。NHKスペシャル「松林図屏風」(H12)、同「桂離宮 知られざる月の館」(H20)、各年度毎に1作のみ企画・放送される特集番組「夢の美術館」を9期連続で手掛けた後、平成21年より現職。
平成24年、Eテレにて「障害者が本当に必要な情報」を楽しむ「お届けする」として新番組「バリバラ」を開発。「No Limit(限界なし)」をモットーに、番組作りの新たな可能性を探る。同番組にて放送文化基金賞、日本賞、ワールドメディアフェスティバル金賞等、受賞・ノミネート多数。

第1日
9月5日
(木)

ドキュメンタリー企画の発想法

「誰も思いつかないようなオリジナリティ溢れる企画は、どのようにして生まれるのか?」NHKの放送の第一線を支えるベテラン・ディレクターが、自ら担当した番組をひもときながら、「発想のツボ」を明かします。



NHK大阪放送局 制作部
専任ディレクター
上野 智男 (うえの ともお)

平成元年入局。美術・教養・歴史を中心に数多くの大型企画を制作。NHKスペシャル「人間国宝ふたり 文楽・終わりなき芸の道」で国際エミー賞入賞(平13)。京都局在籍時に手掛けた「マイルス・デイビス〜帝王のマジック〜」でギャラクシー賞受賞の他、「天上の王朝美 修学院離宮」・「ヒナ・パウチーダンスも演劇も超えて〜」・「南アフリカ 絶景を弾く〜ジャズピアニスト アブドゥーラ・イブラヒム〜」・「魂の縄文アート」土偶」・「若気の至りロックフェスティバル in 京都」など、ジャンル・手法にとらわれない柔軟な着想で、独自の番組世界を生み出し続けている。平成24年より現職。

ワークショップ 提案会議(グループ別)

番組の企画を書いてみよう!

受講生が制作したいドキュメンタリー番組の「企画提案」を作成・提出。その「提案」をもとに、NHK放送研修センターの講師陣と受講生が少人数のグループに分かれて検討・議論する実践講座です。



第2日
9月6日
(金)

撮影

ドキュメンタリー制作の現場で、カメラマンは何を考えているのか?ディレクターとは異なるアプローチをとる「もう一人の取材者」のこだわりと試みに触れます。



NHK大阪放送局技術部
カメラマン
杉江 亮彦 (すぎえ あきひこ)

米ボストン大学コミュニケーション学部放送学科卒。平成6年入局。一貫して撮影畑を歩む。入局3年目に手掛けたNHKスペシャル「電子立国〜コンピューター地球網」を皮切りに「街道をゆく〜津川街路〜」・「アジア古都物語 生と死を見つめる聖地 インド・ベトナム」・「日本の群像〜銀行マンの苦闘〜」・「激流中国〜富人と農民工〜」・「揺れる大國 プーチンのロシア」など数多くのNHKスペシャルを担担し、日本、そして世界の「現在」を、アインザックを通過して切り撮る。福祉社向け「認知症を生きた一元町長と家族の300日」(平18・日本映画テレビ技術会映像技術賞)など受賞多数。平成23年より現職。

編集

それ自体は断片に過ぎない映像素材をドキュメンタリー番組へと昇華させる「編集」。その重要性と守るべきルール、そして情熱を、国内外での豊富な経験を元に伝えます。

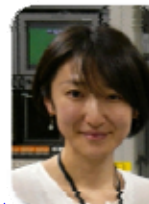


編集プロダクション「ラパッシュ」
代表
長山 修見 (ながやま おさみ)

北海道出身、高校卒業後、渡米。学生時代よりニューヨークにて放送業界に携わる。コロンビア大学卒業後(社会学専攻)、PBS局及びABC局でドキュメンタリー編集。CNN局でニュース編集。1989年帰国、立ち上げ期の「ワールド ヒットス リバイブ」(TXN系列)に関わった後、編集への情熱を自らの形で全うすべく、編集者集団「ラパッシュ」設立。『Faces of Japan NORIKO』(米PBS)、NHKスペシャル「大河出現〜タケカミカン砂漠 ホーテン川〜」・「加・メソファ 現代アジアの舌を攻略せよ」・「外食チェーン 加速する海外進出」をはじめ、「生きて書く〜ハンセン病療養所の詩人・増和子〜」・「赤紙で召集された女性たち〜従軍看護婦が見た戦場〜」・「名古屋」漫画家喫茶」物語」など多数。

ディレクターの仕事とやりがい

ある意では終わりのない番組作りの醍醐味を追求しながら、いかに暮らしも充実させていくか?一筋縄ではいかないこのテーマを「先輩」が語ります。



NHK京都放送局 放送部
ディレクター
中村 玲子 (なかむら れいこ)

平成14年入局、制作ディレクター11年目。美術好きが高じて、主に文化芸術番組を担当。美術番組「日曜美術館」や「美の壺」、その他、芸術に関する特集番組を数多く制作。今年元日に放送した正月特集では、京都の世界遺産「音寺」の一年を追い、知られざる音の美を珠玉の映像とともに紹介。現在はNHK京都放送局で勤務。一児の母として日々育児に追われながら番組制作に邁進中。子育てと番組制作に最も大事なものは「愛情」。

第3日
9月7日
(土)

姿勢と心構え - ドキュメンタリー制作者にとって大切なこと -

ドキュメンタリーを作る過程は、必ずしも楽ではないかもしれませんが、悩み、戸惑い、苦しむのが当たり前の世界、とも言えます。しかし、それでも尚、ドキュメンタリーの現場に立ち続ける作り手たちがいます。「なぜ、作り続けるのか?」「なぜ、ドキュメンタリーでなければならないのか?」「これから目指すものは何か?」ひとりひとりの作り手が、それぞれに抱くその答えをじっくりと耳にしていこうです。

第4日
9月8日
(日)



フリー・ディレクター
植田 恵子 (うえだ けいこ)

カナダ生まれ奈良育ち。9〜14歳を米ニューヨーク州で過ごす。同志社大学社会学部卒業後、在阪テレビ番組制作会社に入社。情報番組、ドキュメンタリー番組の制作に携わる。大阪をベースに、障害者が地域で暮らすことや障害児の子育てをテーマとした映像を制作。脳性まひにより車いすで生活する20歳と18歳の姉妹の「自立」に向けた日々を追った「きほとみずき〜大人の階段 車いすで駆けあがる〜」(毎日放送2010)でH22日本民間放送連盟賞教養部門最優秀賞受賞。2007年にフリーランスとなり拠点を東京に移す。NHK BS1「地球ドキュメント MISSION〜シブヤ 漂流少女を救え〜」、同「地球テレビ 終わらない闘い 東日本大震災」、NHK総合「応援ドキュメント 明日はどっちだ〜三陸ワカメ漁師〜」などの制作を手掛け、障害・虐待・被災地・生きづらさを抱える若年世代などを取材。



ドキュメンタリー映画監督
在阪民放 テレビ番組企画プロデューサー
榎 葉 健 (しば たけし)

1987年、在阪民放局入社。社会派、歴史、自然番組、スポーツなど幅広くドキュメンタリー番組を制作し、日本テレビ技術協会賞、坂田記念ジャーナリズム賞など多数受賞。世界最高峰チョモランマの取材では、登山家たちが放置する大量のゴミを世界のテレビで初めて告発。2年間かけて撮影した「幻想チョモランマ」は海外でも放送された。1995年以降、阪神・淡路大震災のドキュメンタリー15本を制作。その一作「with...若き女性美術作家の生涯」は、日本賞・ユニセフ賞、アジアテレビ賞、ニューヨーク祭優秀賞など受賞。世界的な反響を受け、2001年に映画化。東日本大震災では、個人の立場で被災地に通い続け、自費で映画「うたごころ」シリーズを制作している。